

平成 25 年度第 3 回 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議 議事録**《日 時》**

平成 25 年 9 月 24 日（火） 15:00～17:00

《場 所》

龍谷大学大宮学舎 清和館 3 階ホール（京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1）

《出席者》

別紙 一覧表参照

《議 事 録》**1 開会****◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）**

平成 25 年度第 3 回目の「下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議」を開催する。委員の皆様には、御多忙の中、御出席いただき御礼申し上げます。

本日の会議は公開となっており、報道機関席及び傍聴席を設けているので御了承願いたい。それでは、ここからの進行は谷口座長にお願いしたい。

◆谷口座長

皆様、お忙しい中お集まりいただき、御礼申し上げます。

本日の会議は、エリアの資源ごとの魅力を皆様で話し合う 2 度目の機会である。今回は、「6 つの資源」のうち、残り 3 つについて意見交換を行う。

また、地域連携事業の関係では、「京都しもにし通（とお）めぐり」という名前で発行することになったマップが今日出来上がったところであり、皆様のお手元にもお配りしている。マップの名称を巡っては、前回非常に活発な御議論をいただいた。「名は体を表す」と言うが、名前は非常に重要であると、下京区西部エリアに込められた皆様の思いの強さを改めて感じた。本日も前回に引き続き、忌憚のない活発な御議論をいただければと思う。

2 議事**（1）地域連携事業の進ちょく状況について（報告）****◆谷口座長**

それでは、議事次第に沿って進行させていただく。

議事（1）「地域連携事業の進ちょく状況」について、事務局から報告をお願いする。

— 事務局から、資料 2～資料 5 に基づき説明 —

◆谷口座長

現在進めている事業について説明いただいた。何か御質問・御意見はないか。

◆太田委員

資料5の「京都しもにし通（とおり）めぐりウォーク」の企画について、参加者募集にあたって人数制限が設けられていたと記憶している。チラシにその旨の記載が必要ではないか。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

ウォーク・ツアーは、1回あたり先着30名程度を募集する予定である。御指摘のとおりチラシを修正する。

◆谷口委員

各回30名ということだが、全体としては参加者は何名になるのか。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

定員30名のツアーを4回実施するので、企画全体としては120名となる。

◆谷口委員

観光客の方と地元の方のどちらの参加が多いだろうか。事務局として、当日の状況はどのように予想しているか。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

当日は、梅小路公園及びその周辺で様々なイベントが開催されるため、大きな集客がある。それらの情報と一緒にウォーク・ツアーについて市内全戸配布の「市民しんぶん」で広報しているため、すぐに枠が埋まるのではないか。ツアーの時間を4回に分けて設定しているので、うまく参加者を割り振っていききたい。天気さえよければ満員になると思う。

◆本政委員

参加料一人1,000円というのは、寿司代込みの値段か。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

そのとおりである。

◆山崎委員

参加者は現地で募集するということが、1回目のツアーへの参加を希望したものの定員を超えていた場合、2回目以降の回についてその場で予約できるのか。観光案内所（京なび）で本ツアーのことを案内して現地に行っていたはよいが、希望の回が満員で、しかも次回以降の受付が所定の時間までできないということになれば、トラブルのもとになる。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

参加者の募集は、全ての回を通して先着順で随時行う。例えば、朝一番に来て4回目の時間帯のツアーを申し込むことも可能である。

◆谷口委員

1 1 時半に行けば、好きな出発時間のツアーの予約ができるという解釈でよいか。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

受付ブースを置く梅小路公園でのイベント自体は10時頃から始まるので、それに合わせて全ての回の募集を開始する予定である。

◆谷口委員

「せっかく行ったのに参加できなかった」と不満が出るようではいけない。ツアーの周知に御協力いただける関係者の方々への共通理解の徹底をお願いしたい。他はいかがか。

◆市村委員

受付場所はどこになるのか。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

京都水族館の入場口にほど近い芝生広場にブースを設ける。「京都しもにし通（とおり）めぐりウォーク」という大きなのぼりを立て、受付場所がわかるようにする。

◆中川委員

当日の参加者は、それとわかるワッペンか何かを付けられるのか。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

参加者であることが一目でわかるよう、何か工夫したいと考えている。

◆谷口委員

私からも、2点ほど検討いただきたいことがあるので、述べさせていただきます。

当日ツアーに参加される方は、「しもにし」に関心を持って来られた方であると思うので、連絡先を何かの形でお聞きすることはできないか。後々別の催しの御案内をすることもできるし、将来的には「しもにしファンクラブ」のようなものができる可能性もあるだろう。関心をお持ちの市民・観光客とこの後どう繋がっていくのか、そのあたりを検討いただけたらと思う。

もう1点。下京区西部エリアは、以前から「住んでよし、訪れてよし」の場所で、会社もたくさん立地している。会社に勤務されている方に加え、その御家族も一緒に下京区西部エリアの魅力を体感し、楽しむことができるとより良いのではないだろうか。今回のツアーにそのような枠はないが、今後の事業のあり方の一つとして、地元の方にも御案内をし、家族ぐるみでこの地域の魅力を発見していただくというのもありだと思う。

では、ここで一旦、議事（1）を終了する。10月5日に向け、皆様にはぜひ、良い天気になることを祈っていただきたい。また、お時間があれば、会場にお越しいただきたい。

(2) 資源ごとの目指す姿と活性化に向けた方策についての意見交換

◆谷口座長

それでは、続いて、議題(2)「資源ごとの目指す姿と活性化に向けた方策」についてである。今年度検討会議をスタートした際に、下京区西部エリアの特徴を「6つの資源」で表した。前回は、うち3つの資源について皆様から意見を頂戴したのだが、今回は残りの3つ、「島原の文化と町並み」、「東・西本願寺と門前町」、「新産業・ベンチャーのまち KRP」について意見交換を行いたい。

各資源のポテンシャルや課題等については、事前に送付した資料で御覧いただいていることと思う。3つの資源についてそれぞれ「このような姿を目指したらどうか」、「具体的にこんな事業を行ってはどうか」というアイデアをいただきたい。あるいは、「資料には書かれていないが、他にもとても重要なポテンシャル・課題がある」といったような御指摘があれば、それも頂戴したい。発表は市村委員から順に、お一人2～3分程度でお願いします。

◆市村委員

・島原の文化と町並み

梅小路活性化委員会の委員長と、嶋原商店街の理事長を務めている。69年間この地に住んでいる「土着」の人間としては、「外の人から見た時の島原地区の感覚」と「我々内側から見た島原地区の人間の考え方」、それが大事だと考えている。

現在、京都の花街は五花街と言われているが、豊臣時代は島原も含めた六花街であり、その中でも特に島原は筆頭花街であった。私が子供の頃、全国で一番有名な遊郭と言えば島原だったように思う。昭和の後半に遊郭が姿を消していき、現在は角屋や輪違屋といった太夫文化の文化財だけが残って、暗いイメージが完全になくなったことは、島原の住民として良かったと感じている。梅小路公園ができ、水族館ができ、近い将来には鉄道博物館もできる中で、下京区西部エリアにはますます注目が集まっている。丹波口駅にほど近い「島原」の太夫文化も、これからスポットライトを浴びて、全国の皆様を知っていただく良い機会になるだろう。他所から来られる観光客の方が「もう一度島原に行こうか」と思えるような地域へと、我々地元の者がきめ細やかに作りあげていかなければならないと、強い使命を感じている。

・東・西本願寺と門前町

東・西本願寺の境内で、子供の頃よく遊ばせてもらった。身近にあり過ぎて、これだけの重要な文化財が付近にあるということ、大人になってから再認識した。

・新産業・ベンチャーのまち KRP

KRPや梅小路公園のあたりは、かつてコークスの山であった。学校帰りの砂利道で、コークスを運ぶ馬車の後ろに乗り込んではおじさんに叱られ…というような、のどかな風景が思い出される。そんな場所に今日、京都随一の近代的な建物ができたということに、訪れる度驚かされている。

「島原」、「東・西本願寺」、「KRP」は、とても条件の整った資源・エリアであると思うので、広く大きな枠組みの中で活性化を考え、課題を解決していく必要がある。今後も地域を挙げて頑張って盛り上げたい。

◆谷口座長

島原については、また後で様々なお話が出てくるかと思うが、内と外の受け止め方、どういうイメージを打ち出していくのかということが重要なポイントになるかと思う。その中で、地元の方がどうアピールしたいと考えているのかを知ることがとても大切である。

◆佐藤委員

・島原の文化と町並み

外からの意見というか、私が感じた島原地区についてお話しすると、現在の5つの花街と島原がどう繋がっているのかということ、最近まで全く知らなかった。私が京都へ来た20年前の島原と今の島原とは、イメージがかなり変わっている。最近島原あたりを歩くと、昼間から観光客の姿を見かけ、随分と様変わりした印象を受ける。

島原は、下京区西部エリアの中では、京都駅からKRPへの道のりの真ん中あたりに位置している。よく昼間に京都駅からKRPまで歩くのだが、ちょうど「京都しもにし通めぐり」の4番のモデルコースを通っており、途中で島原があることをとても誇らしく思っている。とにかく、島原は歩いて通りを散策してもらうのが良い。一方で、夜に島原を歩くということがなかなかない。周りに飲食のお店も少ないので、もう少し「夜も歩ける花街」になればと感じている。

◆谷口座長

「花街があることを誇らしく思う」という、外から来られた方の御意見は、非常に嬉しい。

◆山本耕治委員

個々の資源・エリアが単体で活性化するのは難しい。もう少し「鳥の目」で見て、地域資源をどう連携させるかということが大事だと感じている。例えば、人の流れをKRPまで作ろうとした場合に、徒歩移動に適した500～700m程度のポイントごとに魅力を作る、あるいは求めていくということが肝要である。そうすると、西本願寺の方から出発して、島原大門、角屋、さらには第一市場を抜けてKRPに至るという流れも作れるだろうし、梅小路公園から千本通を抜けて角屋、そしてKRPに至るという流れも作れる。足を延ばして八木邸、壬生寺を視野に入れても良いだろう。

・島原の文化と町並み

50年くらいのスパンで見ると、色々なものが動いていく。例えば、木造の家屋・建物をリノベーションして、飲食や物販ができるスペースにしていくとするならば、嶋原商店街も含めて色々なところが変わっていく要素はあるだろう。1年、2年で何かをしようと思えば、今ある資源をいかに外へ発信し、伝えていくかを考えなくてはならない。輪違屋は通常非公開でなかなかオープンにされないのだが、中に入れば素晴らしいものがある。イベント等で何か御協力いただくことができれば良いと思う。

◆谷口座長

島原に散見される比較的古い木造の建物を資源の1つとして活用するという、先ほど

「リノベーション」という言葉があったが、新しい機能を付加し、再生するということが、重要な視点かと思う。

◆市村委員

島原というとやはり「角屋」，「輪違屋」が有名だが、昔は「きんせ」，「ぎんせ」といったお茶屋さんもあった。昔の大きな木造の建物で、改築してカフェのようなことも行っているようである。島原の中をもっと細かく見ていけば、色々なものがある。

◆谷口座長

そういった意味では、嶋原商店街はもっともっと面白くなると思う。

◆中村委員

下京区西部エリアには非常に優れた「6つの資源」があるのだが、あまり知られていないということが大きな課題の1つである。資料6を見ると、今回のテーマである3つの資源についても、「あまり知られていない」，「知名度が低い」ということが共通の課題として挙げられている。課題解決に向けては、まず何を知ってもらうのかというセールスポイントをはっきりさせた上で周知，PRに努めていくべきと考える。また、そのセールスポイントを誰に伝えるのか、ターゲットもしっかりと捉える必要がある。

・島原の文化と町並み

「もてなしの文化」というのが角屋の大事なキーワードである。先日のオリンピック東京招致の演説でも「おもてなし」という言葉が話題となったが、京都生まれ京都市育ちの人間としては、もてなしといえば京都が本家ではないかという思いがある。「もてなしの文化」につながる島原の花街文化をしっかりと打ち出していくことが、大事なポイントになると思う。

・東・西本願寺と門前町，新産業・ベンチャーのまち KRP

東・西本願寺自体の知名度は高いのだが、一般観光客が拝観できる場所があるというイメージをお持ちの方は少ないのではないだろうか。両本願寺の中に入ることでも得られるものがあるという点を、ターゲットを絞りながらPRする必要があると思う。

本日の検討会議の会場である龍谷大学大宮学舎の中へは、実は初めてに入った。非常に落ち着いた雰囲気、学生以外の方がぶらぶら回って見てもさほど違和感がない。ただ、何も知らない観光客の方などは、やはり中へは入りづらいだろう。貴重な明治の建物が並ぶキャンパス内に一般の方も自由に入構できるということをうまく伝えていけば、活性化する大きな要素はあると思う。同様に、龍谷ミュージアムも非常に優れた内容のものをお持ちであるが、「ちょっと覗いてみようか」と気軽に思えるようなPRの仕方を考えていけば、より多くの方がここに集まってくる可能性があると思う。

同じく、KRPについても、関係者以外の一般の人には入りづらい印象がある。せっかくこの検討会議を立ち上げているので、各施設でそれぞれに知名度向上の策を考えるというのではなく、様々な団体の多様な視点から、ヒントを出し合っていければと思う。

◆谷口座長

資源のセールスポイントと、それをPRする際のターゲット、そのマッチングが非常に重要だという新しい視点の御意見をいただいた。

◆山崎委員

・島原の文化と町並み、東・西本願寺と門前町

今日こちらに来る前に、梅小路公園の朱雀の庭などを見学したのだが、その中に平清盛ゆかりの「西八条第跡」の石碑が建っていた。下京区西部エリアには、島原をはじめ、歴史的・文化的に優れたポイントがたくさん存在している。「京都しもにし通めぐり」の中に、そういったポイントを含んだ散策コースが組み込まれていることは、とても良い。我々観光協会としても、このマップを含め、エリアの魅力情報をどんどん発信していきたいと考えている。また、当方では、「京の冬の旅」「京の夏の旅」という、非公開文化財の特別公開を軸とした事業と行っている。昨年の「京の夏の旅」では、龍谷大学の御協力の下、大宮学舎内の非公開文化財を特別に公開し、できたばかりの龍谷ミュージアムの観覧とセットで打ち出した実績がある。エリア内で他にも、特別に公開が可能な非公開文化財等があれば、積極的に組み込んでいきたい。「京の冬の旅」では100万部のパンフレットを全国のJR駅に、「京の夏の旅」ではJR西日本・東海を中心に40万部のパンフレットを配架する。特に、冬の旅は全国のJRの主要駅に大きなポスターを連貼りするので、周知効果は非常に高い。もし候補になりそうなところがあれば、ぜひお教え願いたい。

・新産業・ベンチャーのまち KRP

一般の方向けの体験型の企画、コーナーなどがあれば、もっとPR、情報発信ができると思う。その際には、京都総合観光案内所（京なび）をはじめ、我々の様々な媒体を使って、発信に努めていきたい。

◆谷口座長

龍谷大学大宮学舎の中へは、下京区西部エリア活性化の取組に参加するまで入ったことがなく、隠れた名所であるように思う。大学がこれだけの資源を普段からオープンにしていることは、観光の面でとても有用であるとともに、何より地域住民にとっても、誇りを新たに持つことに繋がるのではないか。

◆齒黒委員

・島原の文化と町並み

エリアの活性化に当たっては、各施設の連携・協力といったことが非常に重要だと思うが、特に島原については、商店街も含めて「地域のまちづくり」の視点を打ち出した方がより地域密着の取組が出来るように思う。角屋ではかつて、1階の庭の眺めがよい座敷で飲食ができたというお話を聞いたことがある。文化財指定等、課題は様々あるかと思うが、お茶会などの季節限定の特別な催しものを行ってはどうか。2階の素晴らしい座敷も、常時外へアピールがすることができれば、より発信がしやすいと思う。また、島原はJR丹波口駅のすぐそばにあるので、アクセスの良さをもっとアピールした方が良い。

・東・西本願寺と門前町

実は私も西本願寺の門徒であるが、観光の視点で本願寺を訪れる人は少ないように思う。ただ、両本願寺が清水寺のようになるのも、別の課題があるだろう。両本願寺とその間をつなぐ門前の商店街との連携だけでは、なかなか一般の方を呼び込むのは難しい。例えば、数珠を作る技術を活かしたブレスレットの制作・販売など、伝統産業を新しいビジネスへとつなげていく工夫があると良いのではないか。また、旅館が多い界限でもあるので、そこに宿泊している外国人観光客を呼び込むことができればと思う。

・新産業・ベンチャーのまち KRP

KRP館内にある漆塗りのエレベーター扉は、伝統と先端技術の融合であり、まさしく「ものづくりのまち・京都」をよく表した素材である。伝統産業と先端産業をひとまとめにした形で、一般の方が疑似体験できるような仕掛けが何かあれば、もう少し中へ人を呼び込めるのではないかと思う。

◆谷口座長

東・西本願寺は、いわゆる「社寺観光」とは違う新しいスタイルを求められている。資料6に、東・西本願寺のポテンシャルとして「まちなかに広がる癒しと学びの空間」とあるが、訪れた人の心に訴えかけるようなおもてなしを、エリア全体で展開できればと思う。

◆外池委員

回遊性を図ろうとしたときに、「下京区西部エリア」の中だけで完結するのは難しいのではないかと思う。例えば水族館から島原へ、果たしてどれだけの人に回っていただけるだろうか。歴史ある施設やその周辺で起こったエピソードなどを、同時代の歴史エピソードを有するエリア外の場所と繋げて発信していくのも、一つの手だと思う。

商工会議所で「京都検定」という事業を行っているが、関東からの受験者が非常に多く、現地・京都での受験を希望して、何日も前から泊まり込んで勉強する方がいるほどである。試験後に復習がてら色々な所を回られることもあり、いわゆる観光地では物足りず、碑など何も建っていないような非常にマニアックな場所へ行く方もいるようだ。そういったニーズ、関心のある方向けの発信を行うのも良いと思う。

・新産業・ベンチャーのまち KRP

KRPは、他の資源とは毛色が違うのではないか。これは「商工会議所にどれだけ多くの人に来てくれるのか」と言っているのと同じようなもので、産業支援の場所であるKRPの活性化と、観光客・市民に向けての情報提供の仕方というのは、少し方向が異なるだろう。館内に「平安貴族のくらしと文化展示室」があるので、一般向けにはここを十分にPRしてはどうか。いずれにせよ、KRPにはKRPならではの活性化の仕方というものが、他とは別にあるように思う。

◆谷口座長

下京区西部エリアの中だけで考えるのではなく、外のエリアともリンクするようなストーリーづくりをしてはどうかという、新しい視点をいただいた。

◆藤井委員

「京都しもしし通めぐり」の完成品を手に取り、やっ和下京区西部エリア全体を網羅したマップができたことと喜んでいいる。見ていてつくづく感じるのは、各施設に特色があり、類似性が少ないということである。その点をいかして、単なる施設間連携ではなく、周りとうまく調整しつつ、施設ごとに新たな試みにチャレンジしていくというのも一つの手であると思う。

・東・西本願寺と門前町

常々、龍谷大学の前の七条通を通る際、良い建物があると思って見ていたのだが、実際にキャンパスの中に入ってみると、襟を正すような明治の雰囲気漂う印象を受けた。ここにも一つ宝物があると、改めて感じた次第である。

・新産業・ベンチャーのまち KRP

新たな京都の産業を発信する場所、「ご近所さん」の一つとして見て、あくまでKRPはKRP単体で、他の資源とは別に活性化を考えていくのが良いと思う。

◆谷口座長

外池委員に続き、KRPの役割について、一つの間いかけをいただいた。

◆高梨委員

・島原の文化と町並み

せつかく角屋という「もてなしの文化」が残っているので、地域の新しい試みとして、皆で「おもてなし」を考えていくというのはどうだろうか。しもた屋（商店でない家）の改装はなかなか一気にはいかないが、あいちトリエンナーレや瀬戸内国際芸術祭等で、廃屋にアート作品を飾り、新たな見方を生み出す取組が行われている事例を参考に、アートをまちに取り入れ、新しい体験・発見を地域に創り出す試みを考えてみるのも良いかもしれない。山本区長が言われた「500m、700mの単位で人の流れ・動線をつなぐ何かがあれば良い」というのを、例えば当面アートで考えてみることもできるだろう。

また、非公開のもの、「地域のお宝」を公開するという取組はどうか。イギリスでは「オープン・ハウス」という、歴史的建造物等の内部を広く一般に公開するイベントがあり、これもおもてなしの一つと言えるだろう。「おもてなし」を地域の中で大切な言葉として考え、様々な方法で実践していくことは、非常に良いことだと思う。

・東・西本願寺と門前町

先ほど「夜も歩けるまちに」というお話があったが、両本願寺で夜と朝の体験ができるような宿泊プラン、あるいは、初心者でも可能な宗教体験プログラムがあると良いと思う。外国人、特にヨーロッパやアメリカ系の方は、相当マニアックな日本文化好きが多い。こうした方には、日本人以上にこのエリアのPRの仕方を考えた方が良い。海外では大学と宗教とが結びついており、大学を見に行くと宗教の勉強・体験ができたりする。あとは、良い素材をどう我々なりに解釈し、地域の協力を得ていくかということが大事である。

また、京都検定の受験者の方に逆にPRしてもらおう形で、マニアックな場所を訪ね歩いていただくようなプログラムも必要ではないか。昼間だけではなく、夜・朝も含めて地域で何をするのかということを見ると、色々なプログラムが考えられると思う。

・新産業・ベンチャーのまち KRP

KRPについては、なかなか現状のままというわけにはいかないだろう。多くのお客様が来られるが、研究者は「おもてなし」が下手であることが多いように思う。例えば、角屋を活用したプログラムを作って、KRPに来る方のケアをするなどの工夫が必要である。

◆谷口座長

「夜と朝」「宗教都市」「大学都市」、また「体験」というキーワードが出てきたが、ただ物見遊山で見るだけでなく、少し学びも含んだ体験や経験、そういったことも重要ではないかという御提案であったと思う。

◆山本芳孝委員

下京区西部エリアへの集客を考えるとすることは、市内の方というより、京都府内や他府県、海外からのお客様に来ていただくという発想ではないかと思っている。その視点でいくと、今回テーマとなっている3つの資源には一貫性がなく、いずれもポピュラーな観光地ではないので、漠然と何かに取り組んでも人を集めることはできないだろう。例えば、修学旅行生なら、鉄道博物館や水族館、KRPなどには関心があっても、その他にはそれほどない。年配の方であれば、角屋や島原に関心があって、むしろ水族館には関心がないかもしれない。つまり、お客様の層、ターゲットに合わせた宣伝・PRをする必要があるということである。

また、ポピュラーな観光には話題性・新規性がある。東京スカイツリーにしろ、富士山にしろ、マスコミ・ロコミの影響でぜひともそこへ行かないといけなような気になって、皆訪れるのだと思う。このエリアでも、名物や話題性を作る努力を各施設・団体で行い「何か面白いもの」があると関心を持ってもらうことで、より多くの観光客に来ていただけるのではないか。例えば、「あの商店街で売っているみたらし団子が本当においしい」などとロコミで伝われば、多くの人を訪れるようになる。フェイスブックやツイッター、食べログなど、ロコミの媒体はネット上にいくらでもあり、話題性があれば自然と人が集まってくるだろう。新しい話題を絶えず考え、観光客を呼び寄せる努力をする必要があると思う。

◆谷口座長

「今の下京区西部は、ポピュラーな観光地ではない」という捉え方、これから活性化を考えて行く上で大切なヒントを与えていただいたように感じた。

◆本政委員

・島原の文化と町並み

このエリアで生まれ、ずっと暮らしてきた。角屋にしろ、輪違屋にしろ、あまりに近過ぎる存在で、今更どのように思っているか問われても、返答に困る部分がある。やはり、地元の間が色々考えるというよりは、「他府県人」の感覚でこの辺りを見てみるということが非常に大事だと思う。私の知る島原は、京都の五花街、あるいは東京の吉原などとは違い、特異な文化を持った場所である。他の花街などと比べて、島原は文化性が非常に高いということをもっとアピールし、他府県の方に知っていただくことが大切だ。

◆谷口座長

「他府県人の感覚」という言葉をいただいた。よそもん（余所者）の視点で地域の資源を発見することはとても大事である。その点、この検討会議の場には、企業にお勤めの方など、他府県の出身の方も多いと思うので、よそもんの視点からの御意見をいただけたらと思う。

◆三輪委員

・島原の文化と町並み

本政委員が言われたように、他の花街との違いをもっと打ち出した方が良いと思う。私も島原のことに詳しいわけではないが、今ある他の花街とはどう違うのか、特に他府県の方には分からないだろう。また、新撰組や幕末ゆかりの資源をいかすことも大事である。西本願寺でも、「新撰組が使っていた『太鼓楼』はどこか」とよく尋ねられるので、興味を持たれる方は多いと思う。

・東・西本願寺と門前町

我々西本願寺においても、門前町の方々と協力しながら、その活性化について随時検討しているが、なかなか進んでいないのが現状である。東山の清水寺の門前、あるいは嵐山の門前のような賑わいを目指せば良いかという、そうではない。西本願寺、東本願寺の門前ならではの活性化というものを考えていかねばならないと思っている。

資料6に、東・西本願寺の魅力の1つとして「拝観無料で誰でも入れる」という項目があるが、観光客の目当ては「拝観料を払って何か特別なものを見ること」の方にあるように思う。境内の案内所に立っていても、国内外の観光客からよく尋ねられるのはチケットのことである。「チケットは要らない。2つのお堂には自由に入ることができる」と答えても、「そのお堂以外にもどこか入れる所はないのか」と言われる。自由に入れない所を目当てにされる方が多いのだが、そういった場所は、秋の法要などの特別な機会以外は非公開にしている。「拝観料がいらぬ」ということが、一方では魅力であり、また一方では魅力になっていないような印象を受ける。

観光を目的に両本願寺を訪れる人が少ないというのは、確かにそのとおりであるし、実際、京都の他の拝観料を取っている寺社とは違う。しかし、気候の良い日の午後などには、うちの御堂の縁側でのんびりと、中には寝転がっている人もたくさんいる。観光ではなく、そういう空間であっても良いのではないか。

門前町には、仏具等を扱うお店しかないというと語弊があるかもしれないが、何かお土産物を求める人にとっては物足りないだろう。いかに門前町に人を呼び込むかということについては、龍谷ミュージアムなどとも連携しながら考えているところである。他の委員の皆様の御意見などもぜひ参考にさせていただきたい。

・新産業・ベンチャーのまち KRP

資料6に、KRPの「目指す姿」の1つとして「京都の先進性を体現できるエリア」という提案があるが、具体的なことが現状あまり伝わっていないように思う。KRPでどんなことができ、また何を体現できるのかを、わかりやすい形でアピールしていくことが必要である。

◆谷口座長

東・西両本願寺とその門前町については、「清水寺や嵐山にある門前町の観光スタイルとは違うものを目指すべき」という考え方がとても大事なポイントになると思う。

また、「無料であることが魅力になるのか、ならないのか」という指摘もとても面白い視点である。「トリップアドバイザー」という世界中で人気の観光口コミサイトでは、「外国人が選んだ日本の観光地」の第2位に伏見稲荷が選ばれている。その伏見稲荷は、拝観無料である。無料か有料かということも関係するだろうが、ビジュアルの見せ方等によっても、大分印象は変わるのではないだろうか。京都と言えまづ清水や嵐山などの名前が挙がりそうなものだが、実際外国人は伏見稲荷を京都の1番に挙げている。この事実は、我々にとってもひとつ重要なポイントになるかと思う。ちなみに、第1位は広島市の平和祈念館、第3位は奈良の東大寺であった。これらの好評価の要因としては、単に有名であるということだけではなく、「そこを訪れることで何を学べ、自分自身の成長に繋がるような体験ができる」といった要素も含まれているのではないだろうか。

◆犬島委員

・東・西本願寺と門前町

東本願寺は京都駅から歩いてすぐのところに立地しており、「京都観光の帰りがけにちょっと」という形で寄られる方が多い。烏丸七条の地に東本願寺が建てて420年になるが、周辺には京都の伝統工芸の商店が軒を連ね、最近では飲食店も進出している。しかしながら、昔と比べると、寺と門前町の繋がりは薄くなってきているように思う。東本願寺としては、親鸞上人の750回忌を機に、近隣の方々ともっと連携していこうと思いを新たにし、具体的な連携の方策を模索しているところである。諸行事がある時に、チラシ・ポスターを持って職員が近隣の180店舗を回るという取組を5年ほど続けているのだが、その甲斐あって、最近では道で偶然お会いした時などにも色々とおしゃべりができるような関係が、近隣の方々との間でできつつある。地域の活性化は、東本願寺単体ではなしえない。門前町でも各店舗で色々頑張っているものの、なかなかそれが地域の中で繋がっていない部分がある。地域連携事業のウォーク・ツアー等への参加・協力など、一つひとつの取組を積み重ねて門前町との連携を強め、活性化に繋げていければと思う。

私は東本願寺で仕事をしており、実家も寺なのだが、中に居過ぎて、地域活性化に向けて寺が寺としての基本的な役割（宗教施設）以外に何ができるのかがわからない。近隣の方と話したり、この会議に出席したりする中で、皆様から色々な御意見をいただけたらと思っている。また、訪れた方に「他にも近くで良い所はないか」と聞かれることがよくあるのだが、今回このエリアの新しいマップができたので、これを活用してKRPや島原などを案内したい。各施設がお互いの情報を口コミで広げていければと思う。

◆谷口座長

お寺さんの側から近隣商店街と繋がろうと、まさしく足で稼ぐような形で努力をされると知り、とても感激している。お寺がお寺さんとしてできることに取り組まれることこそ、一番の「おもてなし」に繋がるように思う。

◆中川委員

・島原の文化と町並み、

今回の意見交換を通して、委員の皆様が島原をどのようにお考えかを知ることができ、良かったと思う。私は島原に生まれ育った当事者である。「元歓楽街である」という考えについては否定しないが、しかし、「歓楽専門のまちではなかった」ということをいつも申し上げている。江戸時代のことなどを色々と調べてみると、島原は俳諧や和歌、文芸が盛んなまちであったということがわかった。これは、他の花街にはない事実である。

以前は、「島原は歓楽街だ」と偏見の目で見られることが多く、大変つらい思いをした。私が子供の頃、島原の文芸に関する資料は一切世に出ておらず、「島原」と言うときと学校で随分いじめられた。14年ほどサラリーマンをしてからこちらに帰ってきたときなども、「なぜ、角屋が文化財にあたるのか」と言われ、とても辛かった。「文化財保護法には『我が国にとって歴史上又は芸術上価値の高いものを文化財という』となっているのにも関わらず、なぜ角屋が文化財なのか」と散々尋ねられたものだ。そこでまず、「島原の地域名を『遊郭』ではなく『花街』に変えてください」と市の観光局にお願いし、変えていただいた経緯がある。「遊郭・廓（くるわ）」と言うと、文化のないまちのことになるので、この言葉は使わないでほしい」と皆様をお願いをしており、パンフレット等での紹介に当たっては、全て「花街」という言葉を使っている。現在、島原にお住みの方はほとんどが一般の方で、風俗営業に関わる店は、輪違屋のみである。しかし、西新屋敷6か町にお住まいの方などは、現在風俗営業の仕事をしていなくても、学校でいじめに遭うことがある。それをなくすためには島原のイメージを変えなくてはいけない。映画の撮影や取材の申込などは、内容をしっかりと聞いて、島原の文化・芸術的価値に合致するものだけをお受けしている。私は住人を代表して、島原にとってマイナスイメージになるような活性化は、絶対認められないと考えている。文芸碑を作ったのも、そういう思いに起因してのことである。島原には俳壇、歌壇があり、有名人が島原の句や歌を残している。お茶屋組合が解散した際には、残ったお金をまちのために使おうと、道路を石畳風に変えた。ちょっと古い家があるからといって、単純にそれを元通りにすれば良いという話ではなく、どういう形で活用していくのかということが非常に重要であると思う。

以前、検討会議の中でも同様の御意見があったのだが、「新選組」を活用することは、まちのためにも良いことである。今年4月に、「新選組の刀傷の角屋」という石碑を作ったのだが、新選組のファンはたくさんおり、そうした方に島原だけでなく、西本願寺なども合わせて見ていただくのが良いと思う。角屋は新選組の宴会が開かれた場所であったが、更に最近の新しい資料で、島原の揚屋は母親孝行の場であったということも分かっている。清川八郎や頼山陽などが、角屋や南隣の揚屋で郷里から母親を呼んで大宴会を行った史実があり、そういう「母親孝行ができる場所だった」という新たなイメージも大切に伝えていく必要があるだろう。

・東・西本願寺と門前町

島原と東・西本願寺とは、文化財や建築の関係からの繋がり・連携が可能ではないか。実は、角屋の室内装飾は、西本願寺の室内装飾をかなり真似している。こういった建築史関係の視点から繋がりをたどり、アピールしていくのも面白いと思う。

・新産業・ベンチャーのまち KRP

KRPでは伝統工芸の研究をされているが、その現物が角屋にある。七宝や陶磁器など、KRPの研究班の方に時々現物を見に来てもらうなどしても良いと思う。

◆谷口座長

とてつもない御苦労、御努力をされて、今の角屋を守って来られたということがよくわかった。島原とその花街文化を、皆で盛り上げていきたいと思う。

◆平野委員

・島原の文化と町並み、新産業・ベンチャーのまち KRP

島原のターゲットは、家族連れや子供というよりは、大人であると思う。下京区西部エリア内で同じく大人がメインターゲットとなるのは、東・西本願寺とKRPあたりだろう。また、島原は、外国人観光客に日本文化を体感していただくのにも、非常に良い場所である。この2点が、島原の「目指す姿」のキーワードになると思う。それを実現するための方策としては、例えば、太鼓楼など西本願寺には島原に繋がるエピソードが充実しているので、西本願寺を訪れた方が島原にも興味を持てるような看板等を作れば、合わせて巡っていただきやすくなるのではないかな。また、外国語で島原や両本願寺のエピソードなどを紹介する案内パンフレットを作り、KRPのカフェやレストランに置いてはどうか。特にスターバックスなどは外国の方に親しみやすいお店であり、そこを島原・両本願寺を巡る観光のスタート地点、あるいはゴール地点のように位置づけられると良い。そして、これは全くの思いつきなのだが、KRPのカフェやレストランの内装を、島原の文化芸術、あるいは東・西本願寺の仏教美術を題材にしたような模様にする事ができれば、観光のスタート兼ゴール地点としてよりふさわしい雰囲気を出せるのではないかなと思う。

・東・西本願寺と門前町

このエリアには、本日の会場である龍谷大学が立地している。したがって、学生の学び・成長を活性化に繋げていくことが、「目指す姿」の1つになりうると思う。例えば、検討会議メンバーなど、下京区西部エリアの有識者の方が交代で、学生のために、エリアの過去・現在・未来といった内容について講義を行う。もしかしたら既に実施されているかもしれないが、そういったエリア研究の特別講義などができれば面白いだろう。大学公認の地域活性化サークルなども良いかもしれない。学生が主体なので、イベントなどの楽しい事柄が中心になると思うが、そういったサークル活動の成果を学園祭や新入生向けの説明会でアピールすれば、エリアのPRにも繋がると思う。

◆谷口座長

非常に具体的な御提案をいただいた。また、新たに大学との連携の話題も出た。

◆花崎委員

・東・西本願寺と門前町

両本願寺の御門徒さんや龍谷ミュージアムに来る方は、遠方の方が多い。そういう方に

とっての困りごとは、周辺にあまり食事処がないことである。御門徒さんの中には、食事を楽しみにされている方が結構多い。東京に築地本願寺というお寺があるのだが、ここを訪れる方の楽しみの1つが、築地で朝御飯・夜御飯を食べることであつたりする。それと同様に、食事やお土産など何かうまい形で、遠方から来られる方を門前町へ繋げることができないだろうか。今、西本願寺の門前で行われている「いちろく市」などの取組が、もう少し広がってけると良いと思う。

また、我々龍谷大学の一番財産は学生である。大津の学舎も加えれば、2万人ほどの学生がいる。活性化に向け、一番早く取り組めそうだと思うのは、学生のサークル活動の活用である。例えば、音楽系のものだけでも、全国大会で金賞を何度も取っている吹奏楽部に加え、マンドリンや雅楽など非常に多彩なサークルがある。「自分たちの練習の成果を聞いてもらう場が欲しい」と学生達はよく言っているので、日程さえ合えば、地域のイベントなどで連携は十分に可能である。

・新産業・ベンチャーのまち KRP

KRPにはビジネスマンや研究者、行政の支援団体の方、海外の研究者がたくさん訪れる。そういった方に「たまには商店街へ昼ご飯を食べに行こうか」と思っただけのような仕掛けを作る。あるいは、海外のお客さんをおもてなしする観点から角屋を、仏教文化の観点から東・西本願寺や龍谷ミュージアムを訪れていただく仕掛けを作るといった形で、KRPに来られる方に積極的に地域の資源を活用してもらうことが大切であると思う。

◆谷口座長

遠方から来られた方が「食事をする場所がない」と困っているのは非常にもったいないことである。現状では、周りでそのサービスを十分提供できていない。

◆市村委員

水族館ができた折にも、同じことを言われた。その後、周りに飲食店が増えてきてはいるが、まだまだ絶対数は少ない。

◆谷口座長

来訪者のニーズはしっかりつかめていると思うので、それに応えるサービスを提供できればと思う。また、学生サークルの音楽演奏などがエリアで楽しめる機会が増えたら、とても素敵だと思う。

◆市村委員

先日、地元の少年補導委員会が梅小路公園のステージでコンサートを行った。こうした地元の活動なども連携・協力できると思う。

◆太田委員

学生の資源の活用ということでは、年1回地域との連携で行う「門前町まちかどコンサート」という取組の会場を龍谷ミュージアムが提供しているのだが、そこに合唱団など学生の

音楽系サークルに参加してもらった実績がある。他にも、龍谷大学の地域活性化関係のゼミで下京区西部エリアをとりあげ、マップを発行したことがあるようだ。また、先ほど平野委員からいただいた面白い御提案として、「地域学」のようなものを学生の講義に活用してはどうかというお話があったが、大学ではエクステンション事業（公開講座）を展開しており、「下京区西部エリア」について学べる講座を、学生だけでなく地元やその他一般の方々に向けても発信することが可能ではないかと感じた次第である。

・島原の文化と町並み、東・西本願寺と門前町

島原地区、両本願寺とその門前町についてまとめて申し上げるが、まずはそれぞれの施設が魅力ある企画をいかに展開するかということが大切である。我々龍谷ミュージアムであれば、独立展をどう企画してお客様に来ていただくかということになるだろうと思う。個々の施設における集客アップに向けた努力と充実を前提に、その次の段階として、面として重層的にどんな企画が展開できるのかという所へ繋げていく必要があるだろう。前回会議でも申し上げたが、梅小路公園を「ハブ」とした広報・情報発信の流れが今後構築されていくと思うので、その流れの中で、先ほど御紹介いただいた「京の夏の旅」の取組や、両本願寺と京都駅ビルが連携して実施された「サマーフェスタ」のような面的な共同企画をどうやって発信していくのか、具体的な方策の検討が必要であると思う。

・新産業・ベンチャーのまち KRP

KRPについては、他の資源のように、観光客や市民の方々がいかに集まっていただくかという視点・切り口はそぐわないのではないかと。エリア全体の話になるが、それぞれの資源、あるいは施設における活性化のターゲットは何かという点にもう一度立ち返って、評価指標なども具体的に考えていく必要があると思う。

旅行会社の方と色々お話しする機会があるのだが、ミュージアム単独の企画だけでは、お客様へ対するアピールが弱いということ、お客様が何かお得感を感じられるようなものがあれば、プログラムとして考えやすいというお話をいただいている。

◆谷口座長

まずはそれぞれの施設がきちんと魅力ある活動を行うということに加え、各資源・施設ごとに目指す活性化は何かを考える必要があるという、とても大事な御指摘をいただいた。

一通り御意見を頂戴したが、皆様の御意見・御提案を聞いてもう少し新しい発想が生まれた、あるいは言い忘れたことがあるといったことがあれば、ぜひお聞かせ願いたい。

◆山本芳孝委員

観光客、お客様を連れて行くという立場から考えると、龍谷大学の宮舎はとても立派で素晴らしいものであるのだが、一般の方には中に入りにくい雰囲気があり、入ったとしても建物の説明・解説などはない。こういった場所へ観光客を呼び寄せるためには、有料でも構わないのでボランティアガイドが必要である。ボランティアガイドを養成し、客が来たときに説明・解説できるような体制がないと、観光客の誘致は大変難しいと思う。エリア内のポイントとなる場所ごとにガイドがいることが大切である。他府県で、観光協会が同様の事業を行っている例があるので、下京区西部エリアにおいても考えてみてはどうだろうか。

◆谷口座長

親切なガイドの方がいらっしゃる旅はとても楽しくなるだろう。それを1つの施設で考えることも、エリア全体で考えることも、十分可能だと思う。

その他、特に御意見などはよろしいか。次回会議では、これまで資源ごとに見てきたものをどういう方法で繋げていくかといった話をする予定である。

本日、皆様のお話から、3つのことが確認できたかと思う。1つは、島原地区の花街文化が、地元住民にとっても、そこに勤めに来ている人にとっても誇りになるということ。その魅力をしっかり伝えていくことが大切であると確認した。

また、東・西本願寺のエリアについては、現代社会において宗教の持つ本来の力、宗教施設の持つ空間の魅力、これがとても大きなものであるということを確認できたと思う。

KRPについては、今は他の資源と同列の扱いだが、ちょっと異なる役割、位置づけというものがあるのではないかという御指摘をいただいた。今日はKRPの鈴川委員は欠席されているが、この辺りのことを引き続きしっかり議論していきたいと思う。

では、本日予定していた議事はすべて終了した。事務局に進行をお返しする。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

第4回会議については、少し時間を空け、11月下旬～12月頃の開催を予定している。

次回、将来構想素案の作成に向けた議論としては、「6つの資源」の枠を超えた回遊性や連携、あるいは、交通アクセスといったことがテーマになるかと思う。本日の御議論については、素案づくりだけでなく、ウォーク・ツアー等、今後の地域連携事業の中でも十分生かしていけるように工夫したい。

次回会議の日程・場所が決まり次第、案内状を送付するので、引き続き御協力をお願いしたい。それでは、本日はこれで閉会とさせていただきます。

(了)

平成25年度第3回 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議
出席者一覧

(五十音順, 敬称略)

	団体名	役職名	氏名
座長	コミュニティデザイン研究室 同志社大学大学院総合政策科学研究科	代表 客員教授	谷口 知弘
	梅小路活性化委員会	委員長	市村 勝
	大阪ガス(株)	京都地区副支配人, コミュニティ室長	佐藤 尚巧
	京都市	下京区長	山本 耕治
	京都市	総合企画局プロジェクト推進担当部長	中村 豊彦
	(公社)京都市観光協会	事務局長	山崎 晶子
	(公財)京都市景観・まちづくりセンター	事務局次長	齒黒 健夫
	京都商工会議所	産業振興部まちづくり推進担当課長	外池 順一
	(公財)京都市都市緑化協会	専務理事	藤井 俊志
	(特活)京都・地球みらい機構	常務理事	高梨 日出夫
	京都府旅行業協同組合	理事長	山本 芳孝
	自治連合会〈大内自治連合会〉	会長	本政 和好
	浄土真宗本願寺派(西本願寺)	寺務所内務室課長	三輪 亨
	真宗大谷派(東本願寺)	宗務所総務部出仕	畠山 真(代理)
	(公財)角屋保存会	理事長	中川 清生
	西日本旅客鉄道(株)(JR西日本)	近畿統括本部京都支社総務企画課(地域共生)担当課長	平野 剛
	(学)龍谷大学	学長室課長	花崎 正順
	龍谷ミュージアム	事務部次長	太田 功